

# 徒然なる1ページ2014

～俳句へのいざない～

俳句 春の季語 上巻

FACEBOOK 投稿分

財団法人大谷教育文化振興財団

徒然なる1ページ制作チーム

『徒然なる1ページ2014 ～俳句へのいざない～』は2014年(平成26年)FACEBOOKに投稿した日本独自の文化である俳句の季語を季節(春・夏・秋・冬)ごとに、それぞれ3巻(上巻・中巻・下巻)にわけて刊行しております。

二月四日

今日の季語のご紹介は“春光(しゅんこう)”です。  
春の日差しの明るい柔らかさや日光の降り注ぐ情景を言います。  
まだまだ寒い日が続きますが暦では今日より春です。

二月五日

今日の季語のご紹介は“蓬(よもぎ)”です。  
山野に自生するキク科の多年草です。  
早春に若菜を摘み草餅の材料とします。

二月六日

今日の季語のご紹介は“風船(ふうせん)”です。  
紙やゴムで出来たもので多種あり、ふくらませて使い(遊び)ます。神社などの屋台で色とりどりのゴム風船の立売などはのどかさを感じる事より春の季語となっております。

二月七日

今日の季語のご紹介は“鰯挿す(えりさす)”です。  
湖沼の水中に青竹を立てて魚が入ったら出にくいように竹の簀【よみ;すのこ】を張りめぐらした仕掛けの事です。  
琵琶湖で2月上旬より3月中旬頃まで盛んです。

二月八日

今日の季語のご紹介は“針供養(はりくよう)”です。  
今日は針仕事を休み神社に参詣して1年間に折れたり古くなった縫い針を納める日です。【地方によっては12月8日】  
俳句では春の季語となっております。

二月九日

今日の季語のご紹介は“初雷(はつらい)・初虹(はつにじ)”です。  
初雷とは立春後にはじめての雷鳴の事です。  
また初虹とは立春後にはじめての虹の事です。  
まだまだ寒い日が続きますがお体をご自愛ください。



二月十日

今日の季語のご紹介は“東風（こち）”です。  
早春に東または北東より吹く強い風の事です。  
春をつける風として古くから用いられております。

二月十一日

今日の季語のご紹介は“建国記念の日（けんこくきねんのひ）”です。  
建国記念日とは、いわゆる建国を記念する日です。  
日本では記紀（記紀とは『日本書紀』や『古事記』などの総称）の中で神武天皇が即位したとされる紀元前 660 年 2 月 11 日とされている。また、戦前は紀元節といったそうです。

二月十二日

今日の季語のご紹介は“金縷梅（まんさく）”です。  
早春に葉の出ていない枝の先に黄色で紐状の四弁花が群がって咲く花です。山地に自生しますが庭にも植えられ生け花にも鑑賞されます。

二月十三日

今日の季語のご紹介は“片栗の花（かたくりのはな）”です。  
片栗粉として皆さんはご存じだろうとおもいますが片栗の花はユリ科の多年草で早春に紅紫色の花を咲かせます。  
根はりん茎となり良質のデンプンがとれます。

二月十四日

今日の季語のご紹介は“風光る（かぜひかる）”です。  
春光のなかを風が吹いて、風そのものが光るように感じられる事です。  
春の到来のよろこびを吹く風に託した言葉です。



二月十五日

今日の季語のご紹介は“焼野（やけの）”です。  
野焼をした後の野、あるいは焼きつつある野の事です。  
また山の場合は焼山と言います。  
また野焼したあと枯草の先だけ黒く焦げ残っている野が末黒野と言います。

二月十六日

今日の季語のご紹介は“堇（すみれ）”です。  
山野に自生する多年草で種類が多いです。  
大工道具の「墨入れ（墨壺）」に似ていることから「すみれ」の名がついたそうです。

二月十七日

今日の季語のご紹介は“公魚（わかさぎ）”です。  
体長 10センチほどでアユに似た優美な姿をしています。  
淡白な味で白焼、つくだ煮、天ぷらなど広く賞味されます。



二月十八日

今日の季語のご紹介は“春の星（はるのほし）”です。  
オリオンのようなきらびやかな冬の星座でも春の空になると淡く遠のくさまをこう言います。

二月十九日

今日の季語のご紹介は“白子干（しらすぼし）”です。  
イワシなどの稚魚をさっと茹でて干したものです。  
ちりめん雑魚とも言います。  
大根おろしや酢醤油で食べるとおいしいですね。

二月二十日

今日の季語のご紹介は“鮓（ふななます）”です。  
鮓は寒鮓【(よみ；かんぶな)】がおいしいですが、琵琶湖の「ゲンゴロウブナ」は春によく捕れて、鮓【(よみ；なます)意味；魚介や野菜・果物を細く、もしくは薄く切って酢を基本とした調味料で和えた料理】にしたものは格別の珍味とされています。

二月二十一日

今日の季語のご紹介は“春の空（はるのそら）”です。  
やわらかな光にあふれた春の空には、のどかさがありません。  
まだ寒さが続いておりますがお体充分にご自愛ください。

二月二十二日

今日の季語のご紹介は“梅見（うめみ）”です。

梅は早春の花として花期も長いです。

梅の名所は春を待ちかねた観梅客で賑わいます。

二月二十三日

今日の季語のご紹介は“蕨（わらび）”です。春の山野に萌え出るワラビの新芽の先は、こぶし状に巻いています。これを早蕨【（よみ；さわらび）】とといい酢の物や煮物または、ご飯に炊きこんでワラビ飯にすると美味しいです。

二月二十四日

今日の季語のご紹介は“余寒（よかん）”です。

寒【（よみ；かん）意味；寒の入（1月5日頃）より立春の前日（2月3日頃）までの期間】が明けてもまだ寒さが残ることです。

二月二十五日

今日の季語のご紹介は“春泥（しゅんでい）”です。

雪解けにぬかるむ春の泥道の事です。

ぬかるむ春の泥道に人の足跡や車などの車輪の跡が泥の起伏により微妙な光が交錯している光景をこの言葉で俳句に詠みこむ事が多いです。



二月二十六日

今日の季語のご紹介は“海雲（もずく）”です。

糸状の海藻で馬尾藻【（よみ；ほんだわら）意味；褐藻綱ホンダワラ科ホンダワラ属の海藻の1種】などに着生します。

やわらかく粘り気があり酢の物に賞味します。

二月二十七日

今日の季語のご紹介は“田楽（でんがく）”です。

豆腐を長方形に切って竹串に刺しサンショウの芽をすり込んだ味噌をつけて焼きます。

木の芽田楽とも言います。

二月二十八日

今日の季語のご紹介は“春蘭（しゅんらん）”です。

山地に自生するラン科の常緑多年草です。

早春に葉の間に花茎をのばして淡黄緑色の美しい花が咲きます。鑑賞花として栽培種も多いです。

三月一日

今日の季語のご紹介は“雪崩（なだれ）”です。  
山岳の積雪は春暖とともに急激にくずれ落ちます。  
山におでかけの方はくれぐれも注意してください。

三月二日

今日の季語のご紹介は“踏青（とうせい）”です。  
春の野辺を若草を踏んで散策する事です。  
昔、中国で3月3日の習俗だったそうです。

三月三日

今日の季語のご紹介は“雛流し（ひなながし）”です。  
雛祭（ひなまつり）の夕方、身のけがれをはらう為に古雛や身代り雛を川に流したり社に納めたりする行事です。  
地方によっては種々の風習がありますが鳥取県の「流し雛」が有名です。

三月四日

今日の季語のご紹介は“鶏合（とりあわせ）”です。  
オスの鶏【よみ；にわとり】を戦わせる事です。  
昔は3月3日に宮中で行われていた記録があるそうです。

三月五日

今日の季語のご紹介は“春の雪（はるのゆき）”です。  
春の雪は淡くて消えやすいです。まれに大雪となっても冬のズッシリとした雪と違い、おおらかで明るさが漂う感じをこの季語で表現しております。

